

氏名	菱谷 純子		
学位の種類	博士（看護科学）		
学位記番号	博甲第 8729 号		
学位授与年月	平成 30年 3月 23日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	女子大学生の性と生殖に関するヘルスリテラシーと次世代育成 力および母親がそなえるジェネラティブィティとの関連		
主査	筑波大学教授	博士（保健学）	水野 道代
副査	筑波大学准教授	博士（医学）	笹原 信一郎
副査	筑波大学助教	博士（保健学）	笹原 朋代
副査	筑波大学助教	博士（看護学）	杉本 敬子

論文の内容の要旨

菱谷純子氏の博士学位論文は、女子大学生の性と生殖に関するヘルスリテラシーと次世代育成能力（次世代の子どもを育てることへの肯定的な自己評価）と母親が持つジェネラティブィティとの関係を明らかにするために行われたものである。その要旨は以下のとおりである。

（目的）

著者はまず、性成熟期にある女性の健康課題について先行研究を概観し、この時期にある女性の性と生殖に関するヘルスリテラシーは本人の次世代育成能力や母親のジェネラティブィティと重要な関係を持つことを説明している。そして、本論文では、ヘルスリテラシーと次世代育成能力およびジェネラティブィティとの関係を明らかにすることを目的に、看護系女子大学生と一般女子大学生および彼女らの母親を対象に質問紙調査を実施し、看護系女子大学生と一般女子大学生との間で調査結果を比較分析することにより、女子大学生の性と生殖に関するヘルスリテラシーに関連する要因の検討を行っている。

（対象と方法）

著者は、7大学に在籍する計1147名の女子大学生とその母親に調査協力を依頼し、質問紙への回答の得られた290名の女子大学生者（回収率25.3%）と192名の母親（回収率16.7%）のうち、学生が専攻する専門分野を特定でき、かつ、学生本人と母親の両者から回答が得られた153組を本研究の対象としている。対象は、看護学を専攻する学生とその母親よりなる看護系群（73組）と非医療系の学域を専攻する学生とその母親よりなる一般群（80組）の2群に分類され、全対象に対する分析と各群それぞれに対する分析が行われている。

著者は質問紙調査において、対象の基本属性と健康状態を確認することに加え、既存の尺度を用いてヘルスリテラシーと次世代育成能力、ジェネラティブィティを測定している。ヘルスリテラシー尺度は「女性の健康に関する情報の選択とその活用」「月経に伴うセルフケア」「女性の身体に関する知

識」の3領域に関するリテラシーを測定し、次世代育成力尺度は「産み育てること」「自己成長」「知恵を伝承すること」「育児を協働すること」に対する肯定的自己評価を測定する。ジェネラティビティ尺度は母親の「生み育てることへの関心」「世代を継承していくという感覚」「世代継承に伴う自己成長感」「世代継承のための脱自己本位的態度」を測定する。

(結果)

著者は153組の対象から得たデータに基づき次の結果(有意確率<.05を基準に判定されている)を明らかにした。

看護系群のヘルスリテラシー得点は、一般群に比べて「月経に伴うセルフケア」に関するリテラシーを除き有意に高かった。また看護系群の次世代育成力得点も一般群に比べて「育児を協働すること」に対する肯定的自己評価を除き有意に高かった。一方、母親のジェネラティビティ得点は2群の間で有意な差は認められなかった。看護系群のヘルスリテラシー得点は、次世代育成力得点との間で、一部の関係を除き、中程度の相関($r_s = .31 - .44$)を示した。これに対して一般群で有意な相関関係が示されたのは、「月経に伴うセルフケア」に関するリテラシーと「産み育てること」に対する肯定的自己評価との関係($r_s = .27$)、「女性の健康に関する情報の選択とその活用」に関するリテラシーと「自己成長」に対する肯定的自己評価との関係($r_s = .23$)、および3つのリテラシー領域と「知恵を伝承すること」に対する肯定的自己評価との関係($r_s = .27 - .35$)だけであった。ヘルスリテラシーと母親のジェネラティビティとの関係は、看護系群では「女性の身体に関する知識」に関するリテラシーと「世代継承に伴う自己成長感」との間に、一般群では「女性の身体に関する知識」および「女性の健康に関する情報の選択とその活用」に関するリテラシーと「世代継承に伴う自己成長感」との間に弱い有意な相関($r_s = .23 - .26$)が示された。女子大学生の「女性の健康に関する情報の選択とその活用」と「女性の身体に関する知識」に関するリテラシーをそれぞれに従属変数とする重回帰分析において、前者ではモデルの21.4%が、後者では20.5%が各独立変数によって説明された。両モデルにおいて有意な関係を示した独立変数は、専攻の違いと「知恵を伝承すること」に対する肯定的自己評価であった。

(考察)

看護系女子大学生のヘルスリテラシー得点や次世代育成力得点が、一般女子大学生に比べて多くの下位尺度間の比較において高い値を示したことや、ヘルスリテラシーと次世代育成力とジェネラティビティとの相関関係の特徴から、著者は、性成熟期にある女性の健康課題への働きかけを検討する際に、保健や健康に関する教育が重要な役割をなすことが示唆されたとしている。また著者は、重回帰分析の結果に基づいて、性成熟期にある女性の性や生殖に関するヘルスリテラシーを予測する変数として、知識を主体とする教育以外の要因を特定していくことの必要性も示唆している。

審査の結果の要旨

(批評)

本研究は、性と生殖に関するヘルスリテラシーと次世代育成力およびジェネラティビティとの関係を看護系女子大学生と一般女子大学生および彼女らの母親を対象に検討したものであり、母親の役割を考慮しながら、性成熟期にある女性の性と生殖に関するヘルスリテラシーに教育背景が強く関連していることが示唆されたという点において、性成熟期にある女性に対する今後の健康教育の在り方において重要な知見を示している。

平成30年1月25日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士(看護科学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。